

全国保健所長会 だより

今年の総会は
福島県郡山市で開催

第77回日本公衆衛生学会総会は、安村誠司福島県立医科大学理事兼副学長・医学部公衆衛生学講座教授を学会長として、平成30年10月24日(水)から26日(金)まで、郡山市のビッグパレット(福島県産業交流館)で開催されます。ビッグパレットは複合コンベンション施設であり、懇親会を除くすべての学会プログラムが同施設内で行われます。なお、本学会の福島県での開催は昭和48年の福島市以来45年ぶりとなります。

プログラムについては学会長講演、特別講演2題、教育講演8題、メインシンポジウム2つ、シンポジウム38、主催企画シンポジウム2つ、市民公開講座2題、一般演題(口演および

第77回 日本公衆衛生学会 総会のご案内

福島県 県北保健福祉事務所(県北保健所)長 兼 衛生研究所長 加藤 清司

示説)等となっております。一般演題の分科会はこれまで同様23であり、優秀演題についても選考します。

公募シンポジウムは、男女共同参画社会の推進、および日本公衆衛生学会認定専門家の活用の視点から「座長、シンポジストには、男性および女性をそれぞれ1名以上、日本公衆衛生学会認定専門家を最低1名(含める)を条件に募集しました。また、シンポジウムを原則公募とし、開催数を制限し、一般演題(口演、示説)での会員間の交流を重視することとしました。

テーマは「ゆりかごから看取りまでの公衆衛生(災害対応から考える健康支援)」

学会長講演のタイトルは本原稿

解』は難しくても『理解』を進めていく」と藤原秋市長はいつもの融和を約束し、白河青年会議所の有賀理事長は「慰霊祭が未来に向けての日本の発展につながると信じている」と語っています。

全国保健所長会について

第75回全国保健所長会総会は、学会開催前日の10月23日(火)に郡山市のホテルハマツで開催します。昨年は70周年ということで特別表彰や記念講演、シンポジウム等が行われましたが、今年には通常の開催となります。午前中に表彰式や講演、総務等各担当理事からの報告および総会議事を行い、午後は研究事業報告と会員協議を行います。

会員協議では皆さまの活発な意見交換を期待しています。

意見交換会(懇親会)は総会会場のホテルハマツで引き続き開催します。衛生部長会お

執筆の7月下旬時点では決まっていますが、学会長の意向として、「特に、東日本大震災後の福島、東北での、現在まで続く災害の影響、そして、それに対する取り組みを伝えられればと思っています」とのことでした。

特別講演は、福島県飯館村復興アドバイザー・前原子力規制委員会委員長の田中俊一先生に「福島第一原子力発電所の事故の概要、および福島の復興について」、政策研究大学院教授・科学技術振興機構上席フェロー・外務省科学技術外交推進会議委員の有本建男先生に「国連・持続可能社会目標(SDGs)と公衆衛生への期待」と題してお話いただきます。

メインシンポジウムは「福島県住民における放射線被ばくによる甲状腺がんリスク評価とリスクコミュニケーション」および「原子力災害と公衆衛生―地域の復興の現状と課題―」と、原発事故関連の内容で統一しました。

東日本大震災後7年半が経過しましたが、震災の経験を生かすため、パネル展示を行うとともに、東北大学総合学術博物館のご協力により、「東日本大震災のバーチャルAR体験型展示」を行う予定です。なお、会場のビッグパレットには、原発事故後、一次避難所として最多時には2000人を超える避難者が生活していました。

戊辰戦争から150年

昨年の学会のテーマは「明治維新と薩摩と公衆衛生」でしたが、会

よび地方衛生研究所全国協議会との合同開催を予定していますので、日頃話す機会のない他地域の部長や地衛研所長等との交流を深めていただきたいと思えます。福島県は清酒鑑評会で金賞受賞数全国1位を6年連続で達成していますが、金賞を受賞した銘柄を可能な限り準備しますので、福島らしいアトラクションとともに楽しんでください。

地区踏査

郡山市でレンタカーを借り、磐越道でいわき市に入り、常磐道または国道6号線を北上するといまだに解除されていない帰宅困難地域を通過することになります。原発事故から7年半経過し、荒廃した農地や住宅地を目にすることは胸が痛みますが、この現実をしっかりと受け止めたものです。

北海道、岩手県に続き全国第3位の面積を持つ福島県は太平洋側の「浜通り」、阿武隈山地と奥羽山脈に囲まれた「中通り」および奥羽山脈と会津盆地からなる「会津」の3つの地域からなり、江戸時代には浜通り北部の相馬藩、中通り南部の

白河藩、および会津藩を除き小藩や天領が入り組んでいたことから、歴史的にもそれぞれ独自の文化を育んできました。方言や気質もそれぞれの地域で異なっています。10月下旬は安達太良山、磐梯山あるいは吾妻山の山麓、裏磐梯の湖沼群やJR只見線沿いの只見川が紅葉の盛りとなっていることでしょう。果物大国福島は、西洋梨、りんご、ぶどうなどの収穫が最盛期を迎えるころです。学会参加後は、福島のおいしい果物を味わいながら紅葉狩りはいかがでしょう。

